

自己点検・自己評価項目

IXAS 日本語スクール

5:達成している 4:ほぼ達成している 3:どちらともいえない 2:取り組みを検討中 1:改善が必要

1. 教育理念・目的等	評価
1 1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	5
2 1-2 学校の特色は何か	4
3 1-3 学校の将来構想を抱いているか	5
4 1-4 理念に基づく教育が行われているか	4

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

日本語教育の経験が豊富な教師とスタッフが、学生の指導を行っています。
より多くの留学生が人生の理想を実現させ、国際的なステージへの第一歩を踏み出せるようになるのがスタッフ一同の願いです。
そのために、教室での学習のみではなく課外活動なども行い、日本をより知ってもらえるような取り組みや、すでに日本で活躍している外国人の話聞く機会などを設け、学生の意欲を高めていけるよう努めています。

2. 学校運営	評価
5 2-1 運営方針は定められているか	5
6 2-2 事業計画は定められているか	4
7 2-3 運営組織や意思決定機能は確立され、効率的なものになっているか	4
8 2-4 人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか	4
9 2-5 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3
10 2-6 学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか	4
11 2-7 危機管理体制は整備されているか	4
12 2-8 施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できるよう学校 教育法に基づき整備されているか	5

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

素早く日本社会に適応し、また日本の文化・マナーや法律制度をきちんと守り、自分の優位性を最大限に発揮する人材を育成する上で、日本語学校は責任重大であると言えます。留学・進学及び専攻の選択などの目的をはっきりさせ、就職先の目標賃金の設定および将来の人生や事業の発展傾向を分析して、最終的に留学の夢を実現させるため、日本語学校は海外留学生のガイドの役割をしっかりと果たさなければなりません。

本学は学生のレベルに合わせて、日本の大学や大学院に進学、あるいは日本企業で働くのに必要不可欠な日本語能力を養います。すなわち、スピードと正確さに加え、丁寧に「聴く、話す、読む、書く」4技能をマスターすると同時に、日本語の運用能力を身に付け、日本人の考え方や価値観を理解することです。この指導理念のもと、適切な日本語で表現し、正確な理解力を持ち合わせ、組織と協力できる能力を培います。また、学生の思考力を育て、語感を培い、言語文化に対する興味を膨らませ、国際感覚を伴ったレベルの高い人材に育てることを目標としています。

13	3-1 教育理念・目的が教職員間で共有されているか	2
14	3-2 教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか	3
15	3-3 教職員評価を行っているか	4

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

教員の連絡ツールとして、連絡ノートや SNS、掲示板を活用し、授業の引継ぎはもちろんのこと、学生の情報共有が円滑に行えるようにしている。

授業見学を定期的に行い、フィードバックを行っている。特に、経験の浅い非常勤講師は業務上の悩みを一人で抱え込みがちであることから、そういうことがないよう、決まった常勤講師をフォローに付け、きめ細やかな対応ができるよう、心掛けている。

授業見学のフィードバックは、その都度教務主任に報告をし、学期ごとにスタッフの総合的な評価を経営側に提出している。しかしながら仕事の性質上、評価は偏りがちで、客観的な評価とは言い難い。できるだけ多くの方の意見を聞きつつ、いかに客観性を持たせていくか、考察中である。

4. 教育活動

評価

16	4-1 カリキュラムは体系的に編成されているか	5
17	4-2 授業評価の実施・評価体制はあるか	4
18	4-3 目標に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた教員を確保しているか	3
19	4-4 成績評価は適切に行われているか	4
20	4-5 各種日本語試験の認定率向上のための指導体制は整っているか	4

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

未だ、コロナ禍から完全に抜けきれない中、卒業式、卒業旅行以外、イベントは前年度に引き続き延期とした。2月に一週間休講を余儀なくされたり、不測の事態が起こったが、その都度、予定を組み換え、柔軟に対応している。年明けには来年度の全体のスケジュールを決め、それに向けて各自が動いている。

毎年度末に、授業アンケートを行っている。授業に積極的に参加したかという学生個人に対する設問から、学校に対する自由記述、教員に対するコメントを求めている。未記名にしているものの、例年、記述欄は学生の忖度が見られるのだが、今年度は母語での記述が多い点の特徴で、その分率直な意見があげられたようだ。一学生の意見を、直接的な教員評価とはしないが、各々の教員の振り返りとして活用してほしいと思う。

教員不足は相変わらずで、応募の条件を下げざるを得ない状態が続いている。かといって、教員は誰にでもできるわけではなく、教壇に立つ以上、必要な資質というものがある。昨今の応募の状況を見ていると、教員の覚悟を持たずして応募される方も多い。結局は学生にしわ寄せがいく。どうにか、この状況を打破したいものだ。

一年に二度、日本語能力試験の模擬試験を中間試験として実施している。成績付けにも関係する大切な試験と位置づけ、カンニング等の不正にも厳しく対応している。今年度は、コロナの影響により4月生が7クラスもあり、前期は全クラス統一試験となった。試験当日は、事務スタッフも総出で試験監督にあたった。

21	5-1 進学・就職指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	5
22	5-2 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	5
23	5-3 学生の心身の健康管理・事故・怪我サポートを行う体制があり、有効に機能しているか	5
24	5-4 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	5
25	5-5 保護者と適切に連携しているか	5
26	5-6 卒業生への支援体制はあるか	4

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

今年度の進学指導は、学生課に一任して行った。というのも、幣校にはもともと2年コースと、1年6ヶ月コースしかなく、本年度に卒業する予定の学生はいなかった。コロナ禍で、入国が今期にずれ込み、一気に新生が入ってきたため、教務課は授業で手一杯となった。そんな中、来年度の卒業生があふれるという情報があり、希望者を募って1年で出す決断をした。今期は、全体に向けての進学説明会は一度も開催していない。全て個別対応となった。結果、36名が無事に希望する進学先へ進学が決まった。

今後、健康診断は、年度に一回とすることにした。今年度は行っていない。来年度より、週末に診断車を呼び、実施する予定だ。

今年度も、残念ながら授業中に倒れる学生が出た。原因は、寝不足、暑さ、栄養不足からくると考えられる。そういった学生がでないよう、健康管理及び、生活指導はしっかり行っていきたい。

6. 在籍管理と生活指導 評価

27	6-1 入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか	4
28	6-2 日本社会を理解するための支援が適切に行われているか	4
29	6-3 我が国の法令を遵守させる指導を行っているか	5
30	6-4 常に最新の学生情報を把握しているか	5

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

入学時にオリエンテーションを行い、在留関係、生活マナー、法令順守、出席率の大切さなどの話をしている。授業の際も、たびたび取り上げ、自己管理ができるよう心がけている。

長期休暇の前には、アルバイト、非常時の対応、自転車の交通ルールなどの指導を行っている。

特に、生活マナーは外部から指摘を受けることが多く、個別に丁寧に指導をしている。

学期ごとの面談の際には、連絡先の変更の有無、アルバイト先の把握など、個人情報を確認し、何か問題があった際には、すぐに職員が駆けつけ、対応できる体制を整えている。

7. 学生の募集と受け入れ 評価

31	7-1 学生の受入方針は定められているか	5
32	7-2 学生募集活動は、適正に行われているか	5
33	7-3 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	5
34	7-4 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	5
35	7-5 適正な定員設定及び在籍者数になっているか	5

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

学生募集は、年2回実施しています。4月、10月の募集となります。学生の国籍・地域は、中国、ネパール、スリランカであり、その他、ベトナム、ナイジェリア、インド、韓国も検討中です。

入学選考基準及び方法が明確化され、適切な体制で入学選考を行っている。入学許可選考は、150時間以上の日本語学習経験があること、12年間以上の教育を受けていること、さらに留学目的がはっきりしており留学期間の経済状況として経費支弁者の協力が得られること等を主な基準として行っています。学生情報を正確に把握し、提出された根拠資料等により確認を行っている。不法残留者を多く発生させている国からの志願者については、学生課職員が現地面接やweb環境(skype)を用いた面接により行うなどの調査を行うよう努めている。その後も現地と密に連絡・訪問を繰り返し、入国、入学できるまでサポートします。特に、中国には現地事務所を置き、より綿密に入学希望者、保護者とコミュニケーションができるようにしています。

入学志願者の学習能力、勉学意欲、日本語能力等を確認するとともに、受け入れるコースの教育内容が志願者の学習ニーズと合致することを確認している。

8. 財務 評価

36 8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
37 8-2 予算・収支計画は有効且つ妥当なものとなっているか	4
38 8-3 財務について会計監査が適正に行われているか	5
39 8-4 財務情報公開の体制整備はできているか	4

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

学校創立以来、教育の質を保証すると同時に、より安定した経営形態を保つために、2019年11月に分校を設立し今現在定員数を180名から270名に増員した。コロナの影響を受けているが、将来に向けて、続けて留学市場の拡大や定員数の増加の準備をする必要がある。そのため、今後の予算立案が必要である。大きな設備投資を控えているため、その点については更なる詳しい試算が必要となる。

5年後・10年後を見据えた経営をするため、今投じる必要経費を十分に回収できる学校運営をしなければいけないと考える。会計については、会計事務所に会計監査を委託しており、適正な収支管理と責任体制が明確になっている。今後は、予算と実績との差異等、照合を進めていき

い

9. 法令などの遵守 評価

40 9-1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	5
41 9-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	5
42 9-3 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
43 9-4 自己点検・自己評価を公開しているか	5
44 9-5 関係省庁への定期報告を遅延なく実施しているか	5

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

入出国管理及び難民認定法はじめ各種法令を順守することは、学生の受け入れ及び日常の指導において不可欠なことであり、学生課を中心に教務課において常に留意しています。学生に対しては、入学時のオリエンテーションにおける説明(通訳)やクラス内でも適宜指導しております。法律の変更等については、逐次教職員で行う朝礼の場において非常勤講師にも徹底しています。個人情報保護に関しては「特定個人情報等取扱規程」を定め文書化し、個人情報が含まれる情報源であるシステム上のデータ及び紙による書類については、規定に基づき適切に管理されております。学生に対しては、入学時及び長期休みの前に法令遵守の指導を実施しています。

10. 社会貢献

評価

45	10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3
46	10-2 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	2

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

今後のクラス増加を見越して、天白警察署の方にご協力いただき、安全教室の資料作りを試みたが、色々協議した結果、今後は出回っている資料を活用し安全教室を行うこととなった。学生が外部と接触する機会が減ってしまったが、今後のクラス運営を考えると仕方ないことかと考える。

地域の情報が少ないため、いかに情報収集をするかが今後の課題といえよう。

〈総括〉

幣校は、この春に開校7年目を迎え、この春ようやく、第5期の卒業生を送り出すことができた。定員も270名に増員され、教員の事務所を2階から4階に移し、新たなスタートを切ろうとしている。とはいうものの、分校、本校との行き来の不便さ、教員の定着率の低さ、教務と学生課との連携など、課題も多い。

昨年度【21年度】の卒業生を送り出してから、4月生の入国を待っていた2週間ほどは学生がゼロになった。本格的に授業が開始したのは5月のゴールデンウィーク明けである。その後、ばらばらと入国が続き、4月生が最終的にそろったのが夏休み前となった。入国がずれ込み一気に7クラスという大所帯になり、どこも初級という幣校始めて以来の異例な事態となった。10月にはさらに新生が増え、落ち着きのない1年だった。日本語の不自由な学生達を相手に、寮の受け入れ、生活指導も想像を絶する目まぐるしさがあった。

2月には、またコロナの波がやってきて、1週間休講を余儀なくされたところであるが、3月にはマスクも解禁となり、飲食を伴う花見も再開されたという明るいニュースも聞かれるようになった。このままコロナ終息に向かってくれることを切に願う。

また、不測の事態が起こっても対応できるよう、万全の体制で新学期にのぞみたい。